

令和6年度 学校経営計画・学校評価				□4月4日提出	□10月3日提出	☑3月14日提出	学校番号	37	大方	高等学校	課程	全
高知県の教育の基本理念	(1)学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく人 (2)郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人 (3)多様な個性や生き方を互いに認め、尊重し、協働し合う人			基本方針	①予測困難な社会を生き抜く力を身につけるための教育の推進 ②多様な背景・特性・事情等を踏まえた包摂的な教育・支援の推進 ③生涯にわたって学ぶことができる環境づくりと活動・取組の推進 ④各種施策を総合的・計画的に推進するために必要な基礎的・基盤的な環境・体制等の整備			学校関係者評価				
	【アドミッション・ポリシー】(入学者受け入れ方針) ○多様性を認め合おうとする生徒。 ○自己の成長を目指し、意欲的に課題解決に取り組もうとする生徒。 ○他者と協力して、何事にも生き生きと取り組もうとする生徒。 ○グローバルな視点でビジネスや防災を探究し、地域に貢献しようとする生徒。 【グラデュエーション・ポリシー】(育成を目指す生徒の資質・能力) ○社会に対して積極的に関わりをもち、地域貢献ができる力を育成します。 ○答えのない問いに粘り強く取り組む力を育成します。 ○グローバル化の進む現代において、多様な人間性を尊重する態度を育成します。 ○思いやりの心をもち、他者と協力しようとする態度を育成します。				【カリキュラム・ポリシー】(教育課程の編成・実施方針) ○少人数を生かし、できた・分かったという生徒の実感を重視した学びを推進します。 ○学びなおしの機会や個々に応じた学習を支援します。 ○地域に根差した、防災教育を実施します。 ○地域や大学と連携した探究学習を推進し、答えのない問いに挑戦します。 ○地域や異校種間の交流を通し、つながる力・プレゼンテーション力・自己表現力を身に付けます。 ○他者との対話を通して、親和的な関係を構築する力を身に付けます。 ○補習や町の補助を生かした、積極的な資格・検定の受験を奨励します。 ○文理コース……………進学後の学びに対応できる力を身に付けます。 ○商業・情報コース…ビジネスの視点で社会を捉え、課題を発見し、合理的かつ創造的に解決する力を身に付けます。 ○地域創造コース………地域の課題を地域とともに考え行動します。			【学力の向上】 評価 【 B 】 すこしずつ学習意欲の向上が見られる。生徒一人一人が希望する進路を意識して学習に取り組めるようしっかりと指導できていると感じます。教職員の努力により学力の向上が図られた。一定の取組の成果が表れています。引き続きの取組としてください。 【社会性の育成】評価 【 A 】 全体では肯定的な意見が向上している。防災活動等、地域での活動の中で様々な学びが見られる。外部との連携も幅広く、地域に根ざした学校づくりがされている。 【チーム学校】 評価 【 A 】 職員間の情報共有であったり全体での取り組む姿勢がよくなっていると思う。時間外については今後も要検討。公設塾や女子サッカー部など成果が見られる一方、職員の多忙化が課題。学校の魅力化、不祥事防止の取組はなされている。				
(評価)A: 目標を十分に達成 B: 目標をほぼ達成 C: やや不十分 D: 不十分												
		育成を目指す資質・能力【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】				
重点項目	学力の向上	★確かな学力 ○基礎的・基本的・発展的な知識及び技能 ○思考力、判断力、表現力等 ○学びに向かう力、人間性等 ★将来を見通した学び ○将来にわたって学び続ける意欲(学習習慣を含む)	①C層以上の生徒の増加 ・1年: (34.3%) → (36.5%) ・2年: (28.6%) → (31.0%) ②授業外学習時間の増加 ③将来のための勉強をしている生徒の増加 ④県版オリジナルアンケート問17「パソコンやタブレットなどの情報端末を授業外学習に活用している」の肯定的回答を各学年1回目結果より向上させる。	①ワンウィークトライアルを学び直しの授業や長期休業中の補習で活用 ②④クラスルーム等を用いた提出物等の活用による授業外学習時間の確保 ③進路LHや授業・面談等における学びの意義についての確認 ④ICT推進チーム主体の教員研修会の実施	B 基礎力診断テスト2回目に向けて、各教科ごとに夏季休業中の宿題や日々の放課後補習、授業での補助問題としてワンウィークトライアルやそれに類似した作成課題を活用している。同時にすらも活用していく。ねらいや流れは毎時間、黒板に明示をし、振り返りを丁寧にを行うように努めている。探究活動やICTの活用については、校内の探究担当者や推進チームを中心に協議を行い教員へも周知・共有を図り、推進されている。 問17は3年95.2%(県平均71.1%)、2年58.0%(県平均64.5%)、1年58.8%(県平均60.0%)であった。1、2年は県平均よりは低い結果となった。	B 具体的な取組内容を継続して実施していく。進路に対する意識付け、学力向上に向けての取組を定着させ、2回目の基礎力診断テストにつなげていく。また、ワンウィークトライアルと合わせてすらも活用していく。3年生は進路決定後の意欲低下を起させないよう、総合的な探究の時間やLH等も活用し、卒業後のイメージもさせながら、最後までやり抜くよう指導していく。 探究活動やICTの活用は継続して行い、校内授業研究等を活用して推進していく。	B ①C層以上の生徒の割合は1年10/33名(30.3%)※1回目は8名、2年10/30名(33.3%)※1回目は5名と、1、2年生とも増加したものの目標を若干下回った。 ②全校生徒の84.5%は時間外学習の必要性を肯定的にとらえているが、41.9%の生徒がほとんど学習できていないと回答。手立ての必要性がある。 ③「将来の可能性を広げるために勉強を頑張っている」の肯定的回答87.3%(R5:83.0%)であり、意識の向上が見られる。 ④タブレットの授業外学習での活用は、3年95.2%→85.0%、2年58.0%→77.4%、1年58.8%→69.7%であり、3年生は下降したものの1、2年生の活用状況が大幅に向上した。	具体的な取組内容を継続して実施していく。基礎学力の定着を目指して、タブレットでの効果的な課題やワンウィークトライアルの活用等で学力向上を図りたい。また、進路を意識して勉強を頑張る生徒も増加しており、進路でも結果を出すことができていることから、学習の大切さは伝わっていると思われる。しかし、まだまだ、進路意識の低い生徒も多いため、ホーム主任、進路指導部、学年団、教科等の連携を図り、進路に関する意識付けと合わせて継続的に行っていく。				
	社会性の育成	★豊かな心 ○自己存在感、自己有用感、コミュニケーション力、自己決定力等 ★多様性・包摂性 ○キャリアデザイン力(やりぬく力) ○他者への思いやり(地域・社会貢献、ボランティア活動等も含む)	以下の県版オリジナルアンケートの肯定的な回答を1回目結果より向上させる。 ①問26「人と一緒に何かをするときは、相手の気持ちを考えて行動している」 ②問29「物事が計画どおりに進まないとき、どうすればよいかを考え、乗り越えようとしている」 ③問30「将来の夢や目標を持っている」	①防災活動、総合的な探究の時間等を中心とした社会性の育成(課題解決学習や防災学習を中心とした地域の人々との交流) ②③総合的な探究の時間による自己管理や業務遂行による自己マネジメント力の向上 ②③ポートフォリオ・キャリアパスポートの活用 ④進路LHや授業・面談等における学びの意義についての確認	B ①問26 3年100.0%(県平均96.5%)、2年90.3%(県平均96.0%)、1年91.2%(県平均96.5%)であった。1、2年は県平均より低い。 ②問29 3年90.5%(県平均89.8%)、2年80.6%(県平均86.3%)、1年80.3%(県平均88.1%)であった。1、2年は県平均より低い。 ③問30 3年85.7%(県平均84.5%)、2年54.8%(県平均77.8%)、1年70.6%(県平均75.6%)であった。1、2年は県平均より低い。	A 具体的な取組内容を継続して実施していく。支援の会等で情報を共有し、日々の教員の声かけ等の安心安全な集団づくりと並行して、個々の認知スタイルを自覚することや、互いに認め合う関係づくりを促していく。また、外部との交流など様々な活動を経験させ、少しずつ自己肯定感を高めていくことが今後の進路実現につながると考える。可能な限り外部と関わらせていく。	A ①問26 3年100.0%→100.0%、2年90.3%→90.3%、1年91.2%→93.9%であり、どの学年も高い水準で肯定的である。 ②問29 3年90.5%→95.0%、2年80.6%→80.7%、1年80.3%→84.9%であり、どの学年も向上した。 ③問30 3年85.7%→85.0%、2年54.8%→71.0%、1年70.6%→87.9%であった。3年生は下降したものの1、2年生の肯定的評価が大幅に向上した。	具体的な取組内容を継続して実施していく。総合的な探究の時間での外部との連携した学びや、地域と連携した活動などにより自己肯定感や自己有用感などの向上が図られており、将来の目標やなりたいたい社会人像を考えさせながら継続して取り組んでいく。				
取組項目	地域協働学習	【取組のねらい】 ○生徒の社会的自立・社会参画に必要な資質・能力の育成 ○地域・関係機関との連携	①県オリジナルアンケート問22「高校入学以降の学習によって、環境や社会の問題に対する意識や行動に変化があったと思う」の肯定的な回答を1回目結果より向上させる。 ②地域・関係機関との連携回数5回	①地域課題解決に取り組む探究活動を実施。 ①②課題解決学習において、地域の方や社会で活躍する方を交えた活動を行う。 ②小中学校への防災出前授業や合同避難訓練の実施等による他校との交流。	A 問22 3年95.3%(県平均76.0%)、2年61.3%(県平均68.7%)、1年76.5%(県平均59.8%)であった。2年が県平均より低い。 小学校への防災出前授業や合同避難訓練の実施等により他校種との交流が図れた。地域の方の協力のもと避難タワーの清掃も行った。地区の集会所で高齢者との交流学習を行うなど、防災意識の向上を目指す活動も行うことができた。	A 主体的に地域の課題解決に励むことで、プレゼンテーション力の向上や自走する力を育んでいくために高知大学や九州大学、京都大学の協力のもと、これまでの取組を継続していく。	A 問22 3年95.3%→90.0%、2年61.3%→83.9%、1年76.5%→81.8%であった。1、2年が大幅に向上した。 ②防災出前授業、合同避難訓練、避難タワーの清掃、集会所での高齢者との交流学習、さらに防災デーや夜間避難体験など防災意識の向上を目指す活動を年間通して行うことができた。	これまでの取組を継続していく。 総合的な探究の時間での外部との連携した学びや、防災学習を中心とした地域と連携した活動などを積極的に行っていく。				
	教科横断的教育	【取組のねらい】 ○学習の基盤となる言語能力や情報活用能力の育成 ○各教科の学びを実社会での課題発見や解決に結び付けられる力の育成	授業改善研修会の実施回数6回以上	他教科や実社会での課題解決を意識した生徒の興味関心を引く授業展開の工夫。	B 年度当初に研修会(本校の探究について)を行うことで、探究に対するベクトル合わせを行った。魅力化評価システム活用研修を行い、授業改善等に関する意識付けとなった。	B 授業改善に関する相互参観授業を実施し、教員間の授業力向上を図る。探究活動、防災、ICTの活用に関する研究授業を実施する	B 中間評価以降の取組として、教科横断型授業(数学と政治経済)(数学と家庭と英語)(ビジネス基礎と簿記)など、積極的に探究的な授業が行われた。	授業改善に関する相互参観参観など、具体的な取組内容を引き続き行っていく。各教科会では生徒一人一人の手立て等の取組を検討したり、若年者を中心に授業改善の協議が行われたり、ICT活用の協議と実践が行われたりしており、継続して行っていく。				
		取組のねらい【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】				
チーム学校	学校の振興	★学校の魅力化 ○生徒数確保に向け、学力向上の取組や生徒支援体制の充実、部活動や地域連携の推進を行い、学校の魅力化特色化を図る。	①学力向上・進路保障の実現 ②女子サッカー部のチーム成立 ③年間3回以上の地域との連携 ④防災教育の推進(地域と協働した防災活動 年2回)と探究活動の推進	①公設塾の活用と塾との毎月の情報交換 ②選手確保のための中学校やサッカークラブ訪問や連携した活動 ③④地域課題解決に取り組む探究活動を実施 ④合同避難訓練や地域と協働した避難所運営訓練等の実施	B 支援会は定期的に行われており、情報共有がされ手立てが考えられている。公設塾により塾生は学習を深めている。女子サッカー部の勧誘については、県内外の中3生への資料配布や試合会場での顧問への周知を行っている。現在、地域外から2名の生徒が受検を悩んでいることを確認している。産業祭に向けても準備中である。	B 具体的な取組内容を引き続き行っていく。資格試験については町からの補助が出る資格もあり、積極的にPRしていきたい。塾とは毎月の情報交換会等を通してさらに効果的に学習させていきたい。サッカー部の生徒募集については、これまで訪問しているところに対し、後追いなどを行い、7名の部員を確保できるように努める。	A 支援会は定期的に行われており、情報共有がされ手立てが考えられている。公設塾により塾生は学習を深めており、学習の深化が図られている。女子サッカー部の勧誘については、県内外への粘り強い勧誘の成果から、県外から3名の生徒が受検までつながった。産業祭や人権フェアにおいても、生徒たちの積極的な活動が見られた。	具体的な取組内容を引き続き行っていく。さらに、防災学習や探究学習などを地域の小中学生と合同で行うことで、地元小中学生との交流を図り、本校への入学生増につなげる。女子サッカーも含め、県外生に大方高校・黒潮町の魅力を伝えるために、年度当初より計画的にアプローチしていく。				
	不祥事防止	★教職員の倫理観の堅持 ○不祥事防止対策の徹底 ○よりよい職場風土づくり ○教職員のメンタルヘルス ○不祥事発生時の適切な対応	○倫理観を持って業務にあたっていると思われるが、全員が不祥事を自分ごとととらえていないことが考えられる。 ①校内研修の実施回数 2回 ②不祥事防止委員会の実施回数 2回	○研修等の充実強化による倫理意識の徹底 ○チェックシートによる自己点検 ○懲戒処分事案等の情報共有	A 校内研修を実施したこと、チェックシートによる自己点検を行ったことで、倫理意識の徹底が図れた。また、懲戒処分事案等の情報も共有できた。不祥事防止委員会も毎月定期的に行うことができている。	A 具体的な取組内容を引き続き行っていく。教職員の日々の様子に目を配り、風通しの良い職場づくりに努める。	A 懲戒の事案がある度に、職員朝礼等で職員全体に懲戒処分事案等の情報を共有し、倫理意識の徹底を図った。また学期ごとに校内研修を実施し、自分ごととして真剣に研修に取り組んだ。	具体的な取組内容を引き続き行っていく。不祥事防止委員会を定期的に行うことで教職員の日々の様子を共有し、倫理意識の徹底を図りながら風通しの良い職場づくりに努める。				
	働き方改革	★長時間勤務の解消 ○国の定める労働時間を遵守し、職員のライフワークバランスを整え、職務の質を高めるとともに職員の健康の維持増進を図る。	①計画的な年次休暇の取得(全員が5日以上) ②時間外勤務の抑制(昨年度以下)	①夏季休業中の休暇取得期間の設定 ②年次休暇の取得(5日以上) ③18時退勤日の設定 ④20時最終退勤の設定	B ほとんどの先生が夏期休暇を取得することができた。学校経営の中核をなす教員を中心に、時間外勤務45時間、80時間、100時間を超える教員がいる状況である。退勤時間を意識することにより、時間外の時数は減少傾向にある。部活動指導者は時間外勤務を月45時間以内にするのは難しい面が見られる。週に一度の18時退勤を設けたことで、退勤時間に対する意識は高まっている。	B 具体的な取組内容を引き続き行っていく。月45時間以上の時間外勤務者は毎月いるため退勤時間を意識した勤務となるよう声がけをしていく。また、業務の平準化を図れるよう職務分掌の業務分担を見直していきたい。 部活動指導者の超過勤務の改善は、専門性もあり難しい。	C 年間通して多忙感是否めないが、夏期休暇や年次休暇を一定取得することができた。週に一度は早めの退勤を設けたことで、退勤時間に対する意識は高まっている。一方で、学校経営の中核をなす教員を中心に、時間外勤務45時間を超える教員が一定数いた。部活動指導者は時間外勤務を月45時間以内にするのは難しい面が見られる。。	月45時間以上の時間外勤務者はまだ多いため、継続して退勤時間を意識した勤務となるよう声がけをし、業務の集中による超過勤務者の改善は業務の分担などを行っていく。「休日のまとめ取り」のための1年単位の変形労働時間制の積極的な活用を促す。部活動の大会の要因による超過勤務者の改善は、専門性もありなかなか難しいと思われる。				